

# 所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第197号 令和8年1月30日

## 江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

- ・「スポーツ・トライ教室」普及出前授業実施報告
- ・第2回小学校外国語教育指導指導連絡協議会実施報告

### 「スポトラ」普及出前授業実施報告

江別市では、児童生徒の体力向上を図ることを目的に、北翔大学と連携した出前授業「江別がときめくスポーツにトライ大作戦（通称：スポトラ）」を継続的に実施しており、本年度で4年目を迎えました。本事業は、春に実施された全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、走力や持久力、投擲力等の課題について、各校から強化したい項目を挙げてもらい、「楽しく学ぶ」をコンセプトに、遊びの要素を取り入れた運動プログラムを北翔大学の太宮先生に提供していただくものです。



野幌小での幅跳び運動の様子



大麻西小での高跳び運動の様子

今年度は、11月13日（木）の野幌若葉小学校を皮切りに、11月18日（火）に大麻西小学校、12月2日（火）に第二小学校、12月9日（火）に上江別小学校、12月10日（水）に中央小学校、年明けの1月21日（水）に大麻小学校と、市内6校で出前授業を実施することができました。



江別第二小でのソフトやり投げ運動の様子



上江別小での切り替えダッシュ運動の様子

学習内容としては、走力の向上をねらい、高さや幅を意識して跳ぶなど、跳躍に変化を持たせた「ジャンプ遊び」や、ダッシュ運動に瞬発力を高めるジャンプ動作、体幹力を高める方向転換運動を組み合わせた「切り替えダッシュ」に取り組みました。また、投擲力を高める運動として、ポリウレタン製の柔らかい素材の棒を使用した「ソフトやり投げ」、さらに、キック力と走力の向上を目的としたリレー形式の「新キック&ダッシュ」など、各校の課題に応じた多様な運動が紹介されました。



中央小でのキックダッシュ運動の様子



大麻小での高跳び運動の様子

今回紹介していただいた実践は、それぞれの運動がどのような運動機能の向上につながるのかが明確に示されており、今後の体育指導を進めていく上での大きな示唆となりました。児童生徒の確かな体力・運動能力の伸長につなげていくためにも、体育授業を中心とした日常の教育活動の中で、今回の取組を継続的に生かしていくことが重要であると強く感じました。

## 「第2回 小学校外国語教育指導連絡協議会の報告」

1月19日（月）に、今年度2回目となる小学校外国語教育指導連絡協議会が開催され、今年度の取組に対する反省と、次年度に向けた活動の方向性について協議が行われました。また、協議の後半では「系統的な教育課程の編成の工夫」「学習内容の定着に向けた『書く』指導の工夫」「評価の工夫における成果と課題」について、事前に寄せられた意見を基に下記のような内容で協議が行われました。

はじめに、系統的な教育課程の編成の工夫については、合同研修や特別委員会、授業交流等を通じた情報共有の重要性が確認されました。中ギャップや学校間格差を解消するためには、学習規律や基本的な支援方法を小中で共有していくことが不可欠であり、地区の実情に応じながらも積極的に取り組んでいく必要があるとされました。特に、「明確な課題提示」「課題解決のための手立て」「まとめ・振り返り」の3点を意識した基本的な授業スタイルを確立し、児童生徒が見通しをもって学習に取り組める支援を進めていくことが重要であると共有されました。

また、教科書内容を基盤としつつ、地区や児童生徒の実態に応じて重点的に扱う単元を明確にするために、中学校区ごとの学習リストを作成することの有効性が示されました。小中9年間を通して育成する資質・能力を明確にした、系統的な教育課程の編成を進めていくことが求められています。

次に、学習内容の定着に向けた「書く」指導の工夫については、授業の導入段階から書き方指導を意図的に位置づけることや、英単語のスペル定着を図るためのワークシート等の活用が紹介されました。また、「書く」ことへの意欲を高める手立てとして、検定や段階的な取り組みを行っている実践例が共有され、市内で成果を共有することで、次年度以降の指導改善につなげていくことが確認されました。

最後に、評価の工夫における成果と課題について協議が行われました。成果としては、昇段形式の小テスト等による意欲づけや、ALT との体験的な学習を通じた表現力の定着が挙げられました。特に、児童生徒が取り組んだ成果を認定証等の形で可視化し、達成感をもたせる実践は、意欲向上に効果的であることが確認されました。

一方で、専科指導における欠席児童への対応や、ペーパーテストによる評価規準の明確化、市内および中学校区内での評価規準の共有、小中間における評価の差の解消などが課題として挙げられました。また、交流ややりとりの場面における見取りの難しさも共通の課題として認識されました。今後は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点に基づく評価規準をより明確にし、どのように見取っていくのかを工夫していくことが重要であると確認されました。



第2回外国語教育指導連絡協議会の様子